

＜2022年3月期第3四半期 決算説明会 主な質疑応答＞

日時 : 2022年2月2日(水) 18:00～19:00

出席者 : 取締役 CFO 岩本 秀之
CSO 補佐 尾崎 真人

Q. 4Q見込みが保守的にみえるが、懸念材料は何か？

A. 市況高止まりが続いているため、一部商品（デバイス、非鉄、鋼板、化学品等）で価格精算があると見込んでいる。また、コンテナ不足も懸念している。年間契約分は問題ないが、スポットの物流は直近で価格が3倍近くに上がっており、業績への影響を懸念。本来は商社/顧客/船社で分担すべきだが、商社の先行負担もあり得る。そのほか、現時点で固定資産減損は見えていないが、座礁資産の整理も検討。

Q. 四半期で見た場合、金属のラップ益や機エネのエネルギー事業の損失等の特殊な要因を除いた全社での実力値はどれくらいか？

A. 従来は四半期300億円程度だったが、現時点の実力値は市況高騰等を割り引いて考えても450から500億円はあるとみている。

Q. 機エネの一過性損益の詳細について教えて欲しい。

A. 固定資産減損については、テキサスでの風力発電における電力マーケット価格が厳しかったため現時点で損失としているが、マーケットさえ上がれば再度期待はできる。エネルギーについては、重油トレーディング取引での損失。販売価格や与信、また、一部在庫流用等、顧客起因の損失を一旦計上。今後取り返せるものもあると考えている。

Q. 金属・化エレ・自動車・アフリカで強い数字が出ているが、来期も強く、増配が期待できるか？

A. 金属は生産台数減少のなかでも当社ならではの機能を発揮し、市況影響もあり利益を確保。化エレも当社のサプライチェーンが評価され、プラスはあってもマイナスはない。自動車はよく売れている。ロシアや資源国、アフリカは足元堅調であり、来期も大きな問題は想定していない。今期は堅めの数字で堅めの配当であり150円はミニマムと考える。

Q. 市況による増益の商品や地域の構成は？今後市況の下降局面での損失影響をどう見たら良いか？

A. 地域別では、中国/北米/日本で3分の1ずつ。種別でも金属スクラップ/コモディティ系非鉄（アルミ等）/レアアース系（パラジウム、ネオジウム等）で3分の1ずつ。自動車用鋼材は集購であり、過剰なラップ損益が出ないように抑制が働くため、価格の上昇が即利益につながるものではない。また今後の市況低下局面における考え方の一つとして言えば、例えばスクラップは昨今のサーキュラーエコノミー事業の状況を鑑みると、市況の影響が丸々剥落するような事態にはならないと考えている。

Q. 販売用自動車は玉不足が顕在化していないように見えるが今後の見通しはどうか。また、高水準の利益率は続くと見ているか？

A. アフリカでは、特に西アフリカ向けのスズキ車、トヨタバッチ車が好調で玉不足は顕在化していない。アフリカ以外のマーケットでもマージンの取れる新興国向けに優先して配車してもらうようトヨタさんと交渉している。

Q. 今期、来期のトヨタ自動車生産台数をどう見ているのか？また、ウクライナ情勢不安による自動車販売影響はあるか？

A. 生産台数の今期見通しについてはトヨタ自動車が公表しているとおおり、900万台を下回るのではないかと予想。来期の生産台数についてはお答えする立場にない。また、ウクライナについて、ロシアの販売に関係するが、ロシアでは情勢不安があると短期的には自動車販売が増える傾向にある。そのためすぐに影響は出ないが、長引けば景気悪化による不調になることがある。よって、来年すぐにネガティブ影響が出るとは考えていない。

Q. 洋上風力の今後の取り組みについて教えてほしい。

A. 個人的には将来の地球のためにやるべき事業だと考えているが、事業者／国／消費者で三方一両損と言う気持ちで進めていくべきだと思う。様子を見ながら長期目線でじっくり取り組みたい。また、洋上以外でも、陸上風力や太陽光などでFITが切れた後でもどうやって収益を上げていくかというところも合わせて考えていく。

Q. 御社への半導体不足影響と今後の見通しを教えてほしい。

A. 当社が早め早めに半導体を確保し、サプライチェーンを繋いできたことに対し、お客様から高く評価してもらえ、結果的に新しいビジネスにもつながっているのも、当社にとってはプラスに働いた部分があったと思う。今後に関しては、当社の取り扱い分は確保できている。本当に足りていないのは一部であり、例えばアナログ系のマイコンなど。

Q. アフリカの収益力が高まっているが、今後はどうか？

A. 元々300億円がポテンシャルとの想定。自動車と自動車以外で半々になると考えていたが、足元では自動車に偏っている。そのため、将来自動車以外のヘルスケアや消費財、電力・インフラなどしっかりしてくれば、まだまだ伸びる。

Q. リチウム市況が高騰しており相当利益貢献しているのではないかと？リチウム事業全体の利益水準を教えてください。トヨタ自動車が公表している2030年までに280GWhへの供給はどうか？第3期拡張の進捗状況はどうなっているか？

A. 足元、リチウムの市況は高騰しているが、当社は長期契約での取引もあり、相場が高騰したからと言って直ぐに利益につながるものではない。現在の生産力拡張はコロナ影響でボトルネックが発生しており、収益は想定より少ない。将来の更なる拡張や戦略などはパートナーと相談しながら検討している。

Q. 2Q説明の際は、減産によりサプライチェーンがダブついでいき、3Qの見通しはネガティブだと言っていたが影響は出ていないと言う理解で良いか？

A. 3Qは挽回生産内示があり、予想に反して引き合いが強かった。部品メーカーでは直近、減産影響で在庫が膨らんでいると聞いており、4Qでは需要が減り影響が出るのではないかと見ている。

以上